

放送ライフラリー ビンゴゲーム ★答えと解説★

<p>問1</p> <p>84.7%</p> <p>どれほど国民の関心が高かったかよく分かるびっくりの数字。ちなみに女子バレーボール決勝、日本対ソ連(現在のロシア)戦の視聴率はなんと85%!「東洋の魔女」とよばれた日本チームは、ソ連をやぶって金メダルを獲得した。</p> 	<p>問2</p> <p>「イ」の字</p> <p>1926年、高柳健次郎博士が、「いろは」の最初の文字であるカタカナの「イ」を、世界で初めてテレビ画面に映しだすことに成功した。</p>	<p>問3</p> <p>A) スイッチング</p> <p>試合の流れやアナウンサーの解説に合わせて、たくさんカメラのスイッチを切りかえるのがスイッチング。時には20台ものカメラを切りかえることも。</p>	
<p>問4</p> <p>おかあさんといっしょ</p> <p>「ぐ〜チョコランタン」などでおなじみの『おかあさんといっしょ』は、なんと1959年に放送を開始した。お父さんやお母さんも見ていたか聞いてみよう。</p>	<p>問5</p> <p>街頭テレビ</p> <p>日本初の民放テレビ局・日本テレビが、始まったばかりのテレビ放送を広めるために置いたのが街頭テレビ。プロレスや野球、すもうなどのスポーツ番組が人気だったのは今と同じだね。</p>	<p>問6</p> <p>B)</p> <p>番組作りの中で、現場監督の役わりをするのがディレクター。台本を作り、照明、音声、美術などに指示を出し、取材してきた映像のどの部分を使うか決める。オンエアが始まるとサブ(副調整室)に入り、現場中継やVTRに切りかわるタイミングを指示して番組を進めていく。多くのスタッフをまとめる、たいへんな仕事だ。ちなみにA)は編集責任者、C)はプロデューサー。</p> 	
<p>問7</p> <p>約40か月分</p> <p>1953年ころの大卒初任給1か月分5000円に対して、テレビは20万円。現在で言うとなんと800万円くらい!</p> 	<p>問8</p> <p>C) クロマキー</p> <p>青いのに「黒マキー」?…正しくはクロマ・キーと言って、色のついた壁(この場合は青や緑)の部分に別の映像を合わせる技術。だから、壁と同じ色の服を着ていると、その部分だけ映像が合成されて、とうめい人間になってしまう。</p>  <p>天気予報でよく使われている技術だよ。</p>	<p>問9</p> <p>ラジオ体操</p> <p>夏休みの定番・ラジオ体操は、国民の健康のため、1928年(昭和3年)に放送開始。昔の小学生も、毎朝元気に体操していたのかもしれないね。</p> 	
<p>問10</p> <p>①スタジオ→②サブ→③マスター→④電波塔→家</p> <p>番組は、スタジオやVTR、中継など、さまざまな場面で構成されている。これを1本の番組にまとめているのが、それぞれのスタジオに付いているサブ(副調整室)。マスターは、すべてのサブから番組が集まってくる放送局の心臓部。その日に放送される番組やCMの順番に間違いがないよう管理している。ここから電波が電波塔に送られ、みんなの家のテレビに映っているんだ。</p>		<p>問11</p> <p>赤</p> <p>東京オリンピックが開かれた1964年は、それまでは黒だったテレビがカラーになり始めた時期。真っ赤な上着を着た選手団の入場行進が国民を感動させたのもカラー放送ならではの。</p>	<p>問12</p> <p>2センチ54ミリ</p> <p>(2cm~3cmの間で正解)</p> <p>テレビ画面のサイズは、対角線のインチ数で表されているよ。家に帰ったら、まきじゃくで計ってみよう。ジーンズや自転車のサイズも、単位はインチだよ。</p>